

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 25 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 25 年 4 月～6 月期の実績および平成 25 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	19 社	63.3%
水産業部会	30 社	21 社	70.0%
機械工業部会	30 社	17 社	56.7%
建設業部会	30 社	21 社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	17 社	56.7%
合 計	150 社	95 件	63.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

－業況は改善。次期はプラス圏へ回復見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成25年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△14.7**と前回調査時の△27.2より**12.5ポイントの回復**となりました。業況指数は前年同期比指数で景気回復傾向にあり、経営環境はやや明るい兆しが見え始めた状況にあると思われま

す。部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値△55.0→今期△36.8]、水産業[前年DI値6.3→今期0.0]、機械工業[前年DI値△42.9→今期△23.5]、建設業[前年DI値△36.8→今期0.0]、観光・サービス・諸業[前年DI値△4.3→今期△17.6]となりました。年度明けの第1四半期目に商業食品業は低水準のまま悪化傾向が続いており、消費者の消費動向はあまりよくないという数字が現れております。機械工業と観光・サービス・諸業は回復傾向にあるが業況指数はマイナス圏で推移しています。一方、水産業と建設業はプラスマイナスゼロで業況の好転と悪化が同数で、ホタテの本格操業が始まる時期に入り、毛ガニの水揚げも前年よりも若干良かったことが影響しており、建設業は建設・土木・電気工事が堅調で、両業種ともプラス圏への回復の兆しが見えつつあります。

全体の業況は、グラフを見ると右肩上がりでの回復傾向の兆しが見受けられ、今後の指数の状況が早急に回復していくことを期待しています。ただし、回復業種は水産業、建設業、観光サービス諸業に限定されており、今後の景気動向には注視していきたいと思

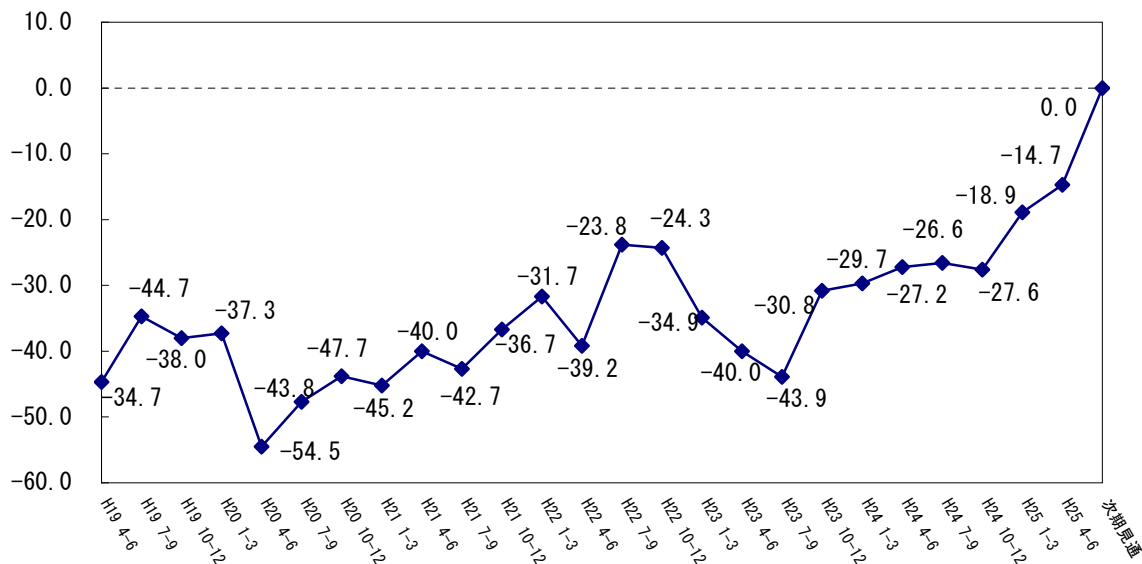
います。**来期(平成25年7月～9月)**については、今期と比べて**業況判断DIが14.7ポイント改善**するとの予測となっています。アベノミクス効果が徐々に現れてきているように感じま

業況推移

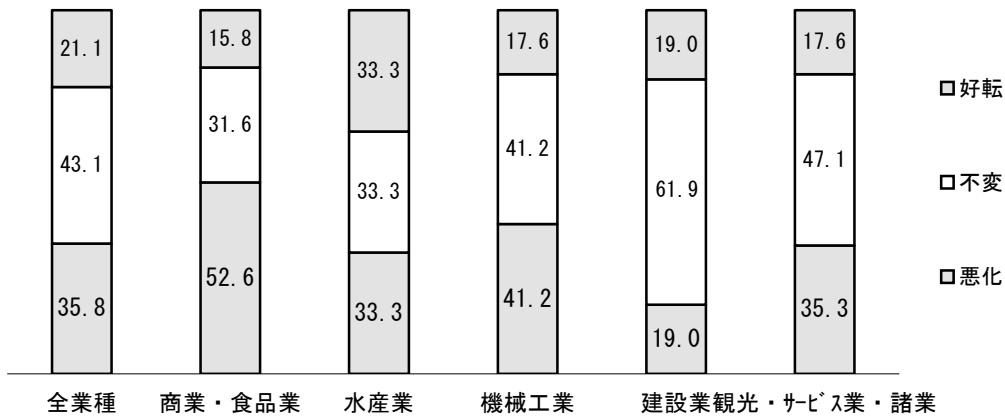
(全業種平均D・I)

(好転－悪化)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に需要の停滞と原材料等の価格上昇を訴える声が多く寄せられています。また、中心商店街の空き地・疲弊化はさらに進んでおりますが、中心部にある市所有の空き地では、現在夏のイベント事業等に活用されており、少しずつ活気づいてきています。今後、市内では北見信金や広域病院の移転新設工事が進むため、建設業社は多忙になると思われます。設備投資については、若干動きが出ていますが、慎重な見方も続いています。

■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比） $\Delta 36.8$ （前年 DI 値 $\Delta 55.0$ 、来期見通し $\Delta 26.3$ ）〕

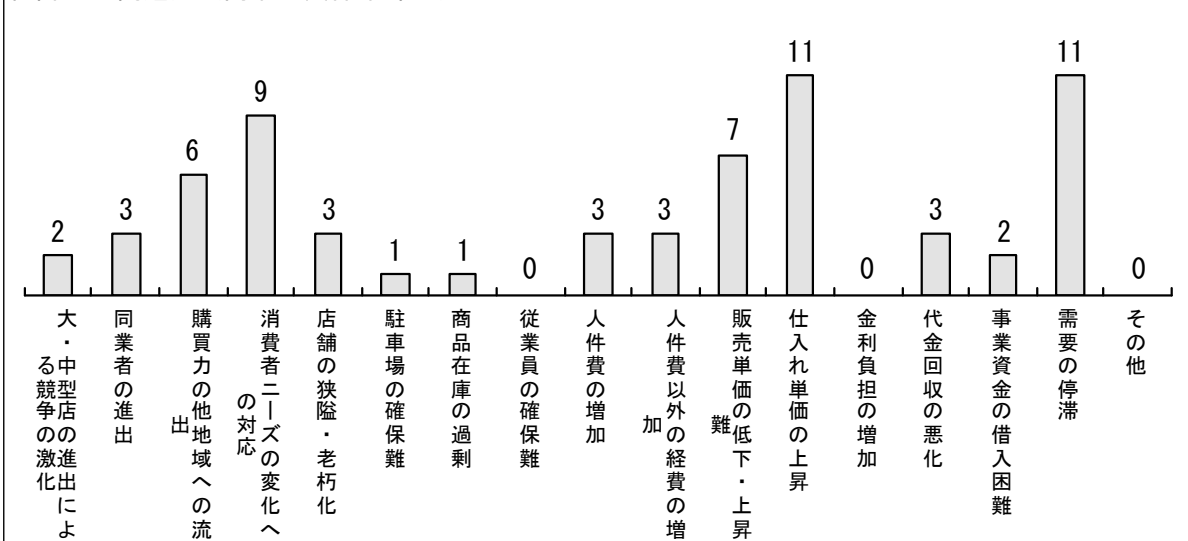
業況 DI 値（前年同期比）は、厳しい状況で推移しています。商業食品業部会にはアベノミクス効果による経済回復は消費者マインドは反映していない状況であり、買い物意欲の低下が見受けられます。次期の見通しも $\Delta 26.3$ とお盆商戦もあまり先の見通しが立たないという状況のようです。

経営上の問題点としては「需要の停滞」「仕入れ単価の上昇」「消費者ニーズの変化への対応」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・円安の影響で値上商品が多く国民は困っている。（小売）
- ・消費税増税後の売上減少についての不安（小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）



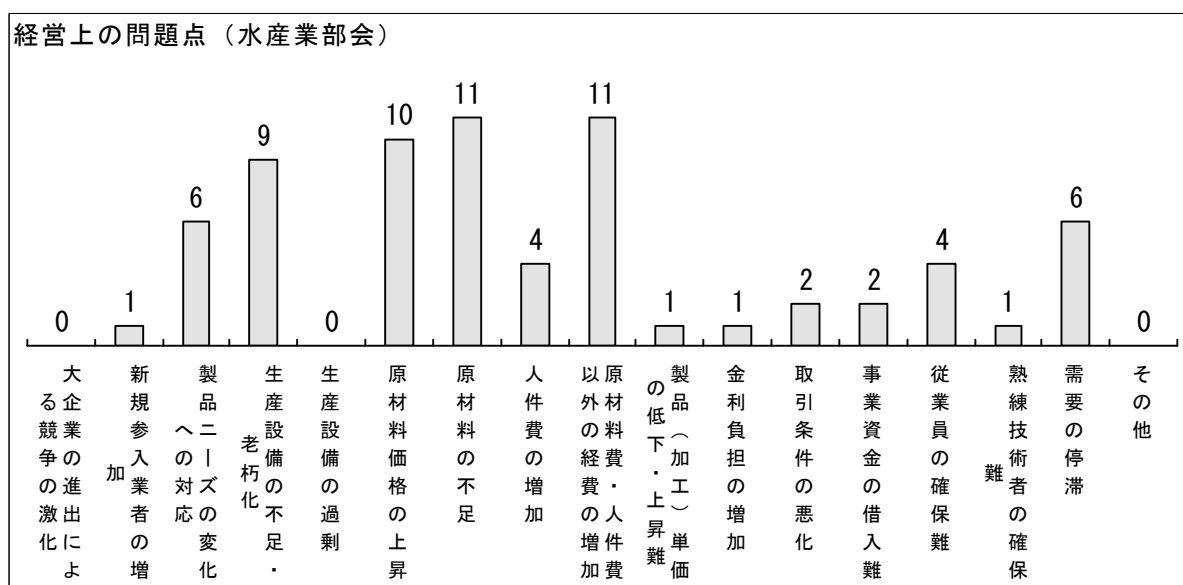
【水産業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) 0.0 (前年DI値 6.3、来期見通し 9.5)]

業況判断DI値(前年同期比)は好転悪化の指数が同数となり業況は改善傾向と思われま
す。毛ガニの水揚げが昨年よりも良かったとの報道もあり、最盛期を迎える来期見通しについて
も、9.5ポイントとこちらも改善の期待を持った数字となっております。しかしながら現場の声を
聞いてみると、原魚やホタテの不足状態・原油高騰による重油の値段が高くなり経営への影響
が大きいと聞いております。来期見通は 9.5 ポイントと改善傾向にあり、本格操業となるホタ
テも順調な滑り出しのようです。

経営上の問題点としては「原材料費・人件費以外の経費の増加」「原材料の不足」「原材料価
格の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・アベノミクスは今のところ実感なし。このままだと消費税がどんどん上がるような気がしま
す。物価上昇も含めて。(漁業)
- ・アベノミクス効果は実感としてない。水産加工の原料(魚)不足が深刻。(水産製造)
- ・何もかもがじわじわと値上がりして来ています。だからと言って、商品の価格を上げていく
わけにもいきません。消費税が上がった時にどう対処したら良いのか考えられません。給料
もしばらく上げられないので、この先苦しい事ばかりです。(水産加工)
- ・為替が円安傾向にある為、市場で競合する輸入品に対しては、相対的にアドバンテージを得
ているものの、ユーザーの低価格品要望は依然として強く、製造コストを転嫁しきれないケ
ースもある。今後も円安による原料・資材・電気・燃油というの値上げ分や、消費税増税分
を製品売価に転嫁できるかが不安要素である。景気好転の影響が過度のインフレではなく、
末端商品価格の適正化となれば、更に景気的好転になると思われます。(水産加工)



【機械・工業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) Δ23.5 (前年DI値Δ42.9、来期見通し Δ17.6)]

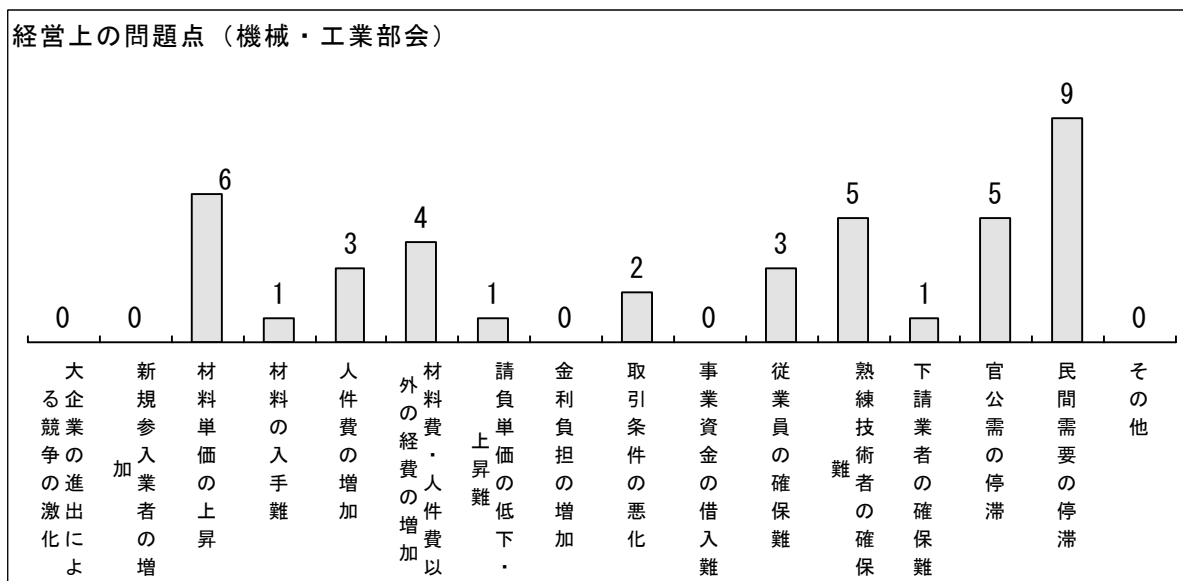
業況判断DI値(前年同期比)は、前年DI値と比べると改善しています。前年同期よりも新
車販売や自動車整備が若干増加している事が理由と思われます。業況の次期見通しは、やや改
善するとの予想であり、なかなか大幅な回復は見込めず、ここでもアベノミクス効果による消
費マインドの上昇は大きく感じられません。建設業や水産業の自動車修理や機械整備などが改
善の中心で動いていると思われます。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられて
います。

《業界の問題点等》

- ・当社にはなにもなし。(機械修理)

- ・効果は形として見えてこない。取引業者も良くなるだろう的な希望があるようです。年末にかけて非常に心配です。(機械小売)
- ・印刷用紙、材料の仕入単価値上げ分が価格に転嫁できない(難しい)。アベノミクス効果については、全く恩恵が感じられない。(印刷製造)
- ・熟練技術者の確保難。繁忙期の人材確保。(鉄工)



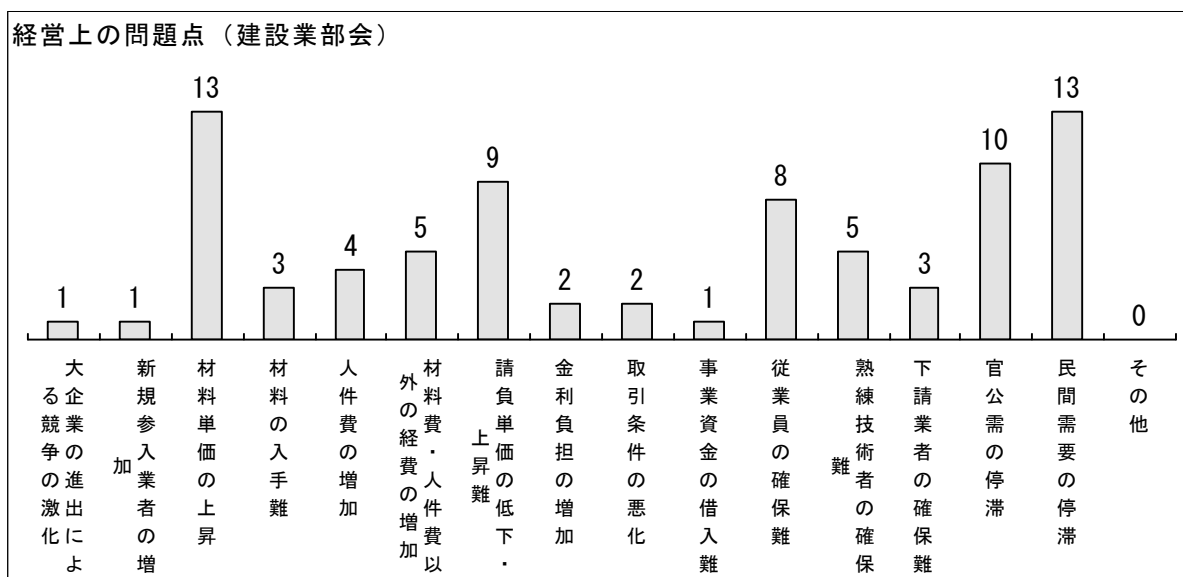
【建設業部会】 [業況判断DI値(前年同期比) 0.0 (前年DI値△36.8、来期見通し19.0)]

業況判断DI値(前年同期比)は、前年DI値と比較すると大幅な改善です。アベノミクス効果による公共工事の増加、太陽光発電事業工事などが大きく改善へと導いています。また紋別市内では、北見信金と広域病院の移転新設工事が控えており、これから夏の繁忙期に更なる業況回復が次期見通し19.0という数字に表れております。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「材料単価の上昇」「官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・アベノミクス効果は我々小規模には利益なしだと思います。消費税8%はチョット痛いですが。売上の上限を決めず、事業者全部に適応したら、8%にしないでとも思います。(建設)



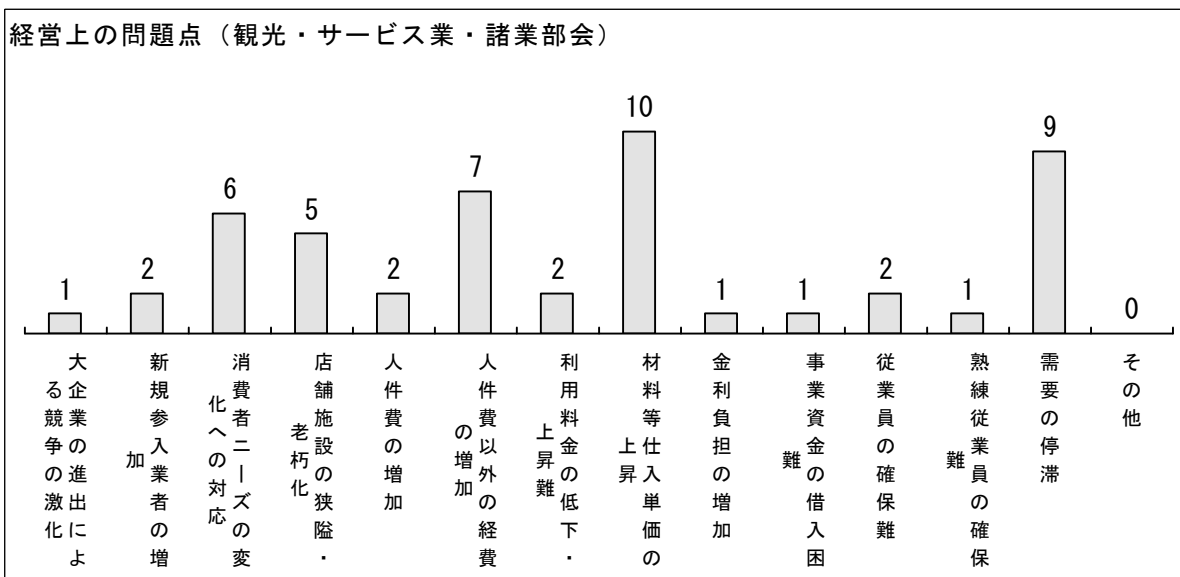
【観光・サービス・諸業部会】 [業況判断DI値(前年同期比)△17.6(前年DI値△4.3、来期見通し11.8)]

業況判断DI値(前年同期比)は前年DI値よりも悪化しています。消費者マインドがサービス業への財布のひもを緩める状況はなかなか見えてきません。ゴールデンウィークは悪天候で観光客も少なく、非常に厳しいスタートでしたが、観光シーズンがやっと到来し、外国人観光客も徐々に訪れており、少しずつですが食堂等飲食関連も回復傾向にあると聞いております。来期見通しはプラス回復の11.8と夏場の消費動向に注目していきたいところです。

経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

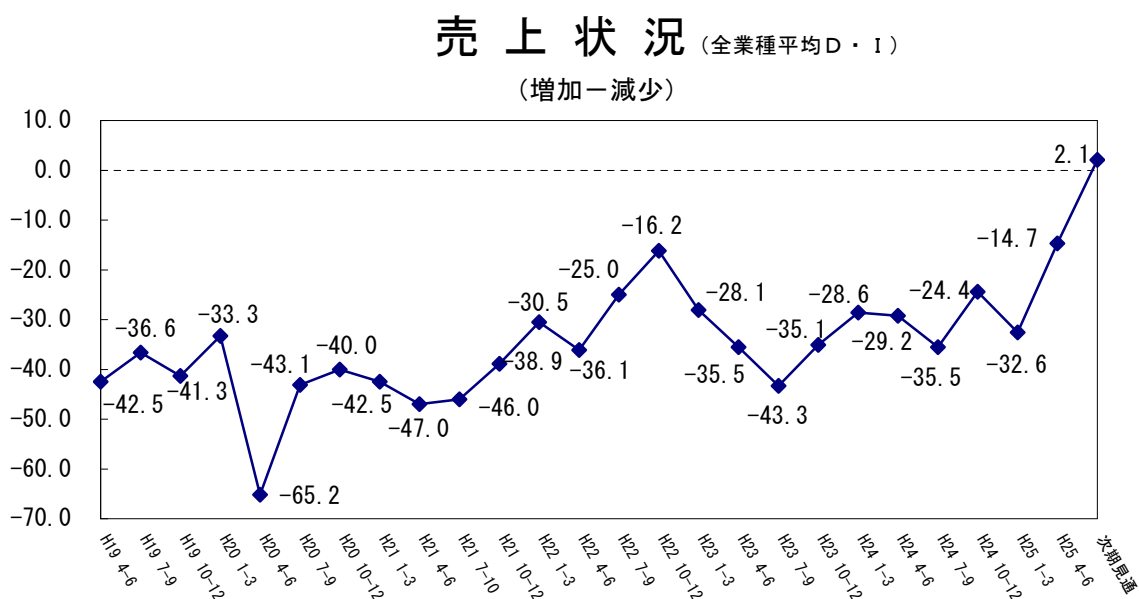
- ・お盆期間の売上増に期待しています。時期予想は期待を込めた判断です。アベノミクス効果は全く実感がないです。(飲食業)
- ・アベノミクス効果は、地方では全く感じられない。消費税の改定は消費の更なる低迷が懸念される。(宿泊業)
- ・消費税が増税されますと、店の経営が厳しくなると感じています。(飲食業)
- ・GW期間の超々々悪天候の影響が超々大でした。アベノミクスも底辺の人には今のところ恩恵見当たらず。(飲食業)
- ・消費税の税率は生活必需品は5%のまま、高級品・贅沢品のみ10%にする。(飲食業)
- ・5・6月の寒さが花観光(芝桜・チューリップ)に悪影響で、売上大幅減。アベノミクス効果はいまのところ見えない。今後に期待する。(観光卸売業)



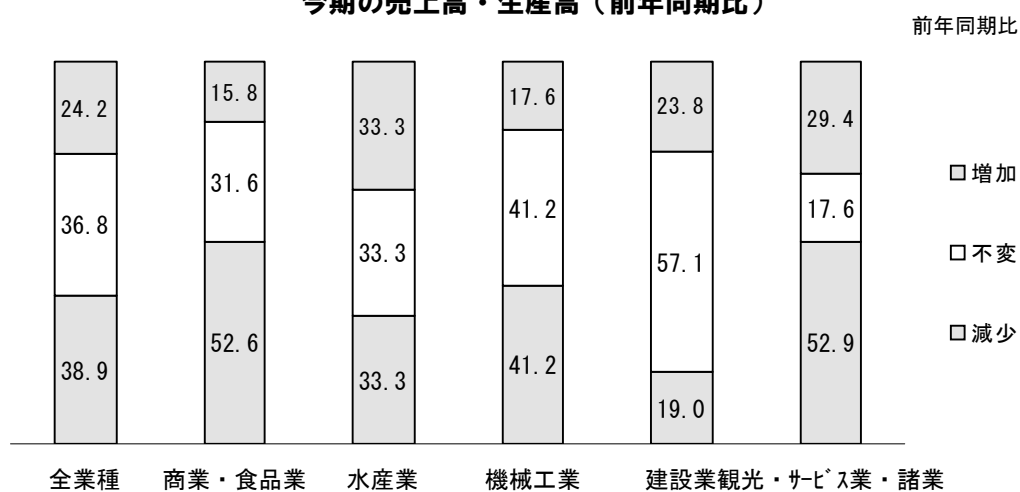
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値 Δ 14.7〔前年DI値（平成24年4～6月期 Δ 29.2）より14.5ポイントプラス〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年 Δ 55.0 \rightarrow Δ 36.8〕、水産業〔前年 Δ 0.0 \rightarrow Δ 0.0〕
 機械工業〔前年 Δ 38.1 \rightarrow Δ 23.5〕、建設業〔前年 Δ 36.8 \rightarrow 4.8〕
 観光・サービス業〔前年 Δ 13.0 \rightarrow Δ 23.5〕

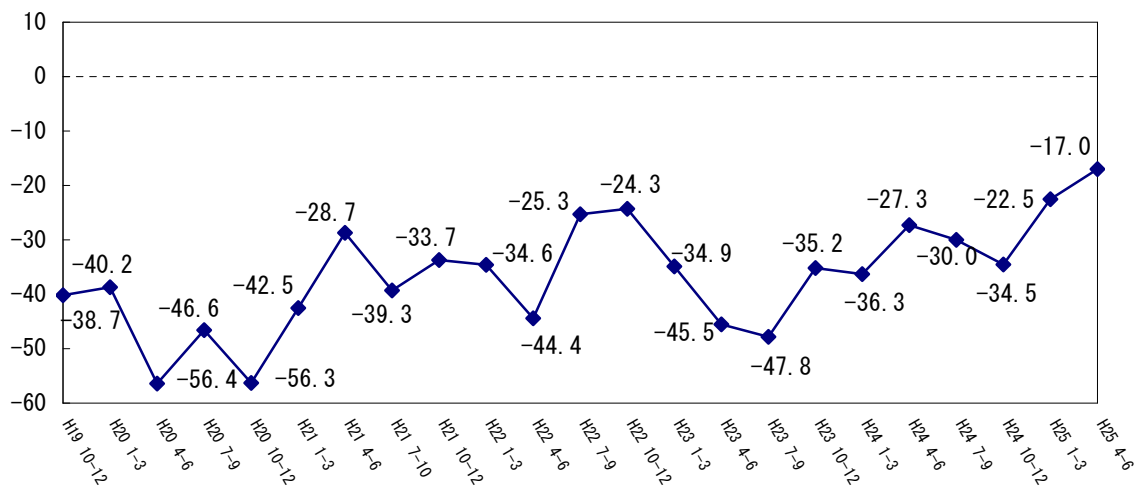
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の採算水準）

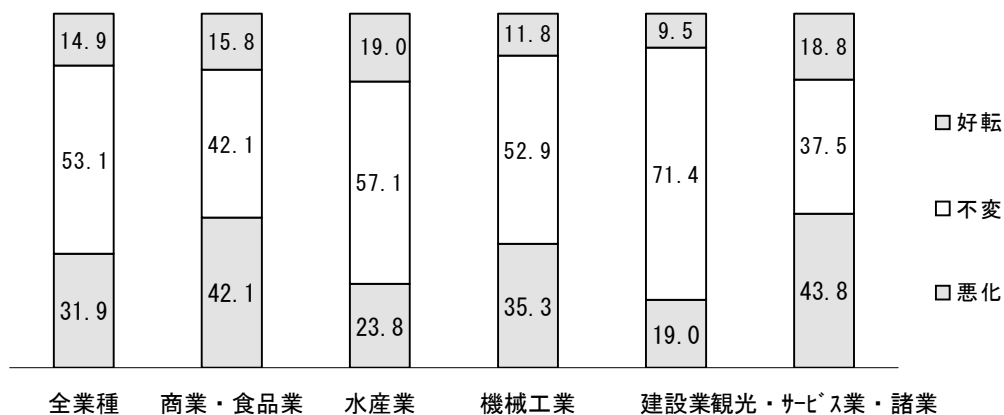
採算推移（全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



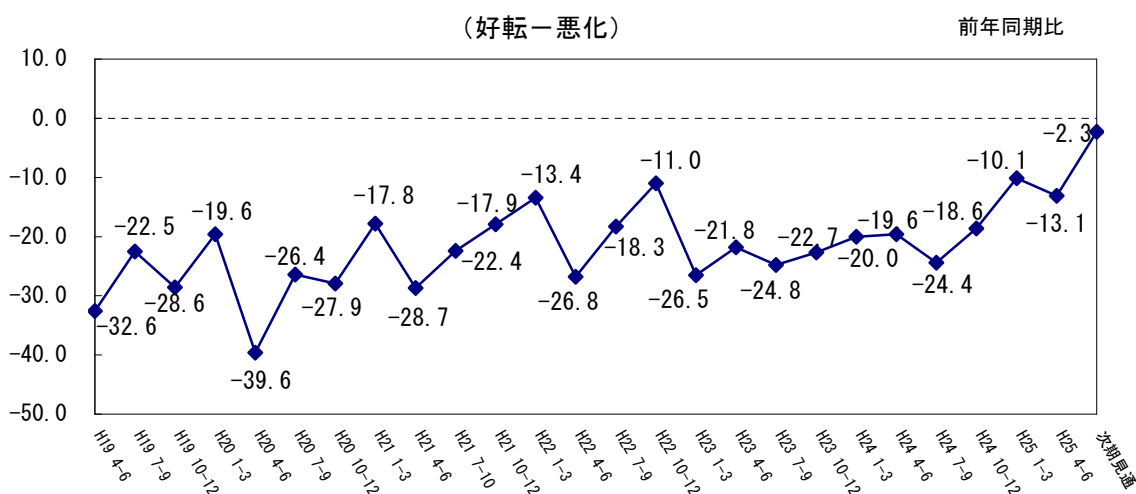
全業種平均でDI値△17.0〔前年DI値（平成24年4～6月期△27.3）より10.3ポイントプラス〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年△40.0→△26.3〕、水産業〔前年12.5→△4.8〕
 機械工業〔前年△38.1→△23.5〕、建設業〔前年△42.1→△9.5〕
 観光・サービス業〔前年△21.7→△25.0〕

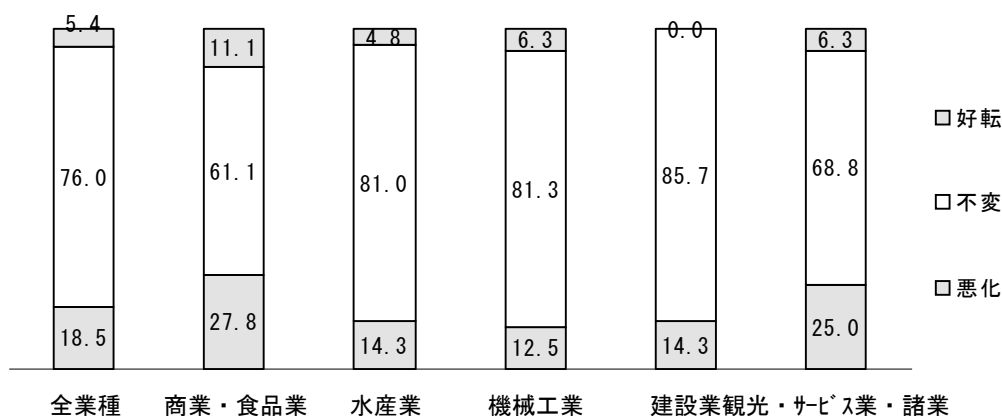
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（全業種平均 D・I）



今期の資金繰り（前年同期比）

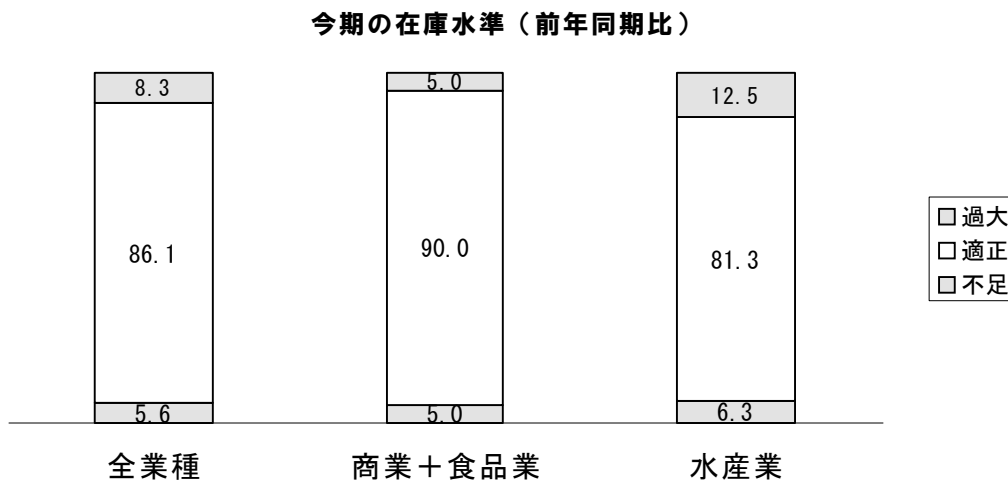


全業種平均で DI 値 $\Delta 13.1$ [前年 DI 値（平成 24 年 4～6 月期 $\Delta 19.6$ ）より 6.5 ポイントプラス]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年 $\Delta 5.3 \rightarrow \Delta 16.7$]、水産業 [前年 $\Delta 21.4 \rightarrow \Delta 9.5$]
 機械工業 [前年 $\Delta 17.6 \rightarrow \Delta 6.3$]、建設業 [前年 $\Delta 26.7 \rightarrow \Delta 14.3$]
 観光・サービス業 [前年 $\Delta 36.4 \rightarrow \Delta 18.8$]

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

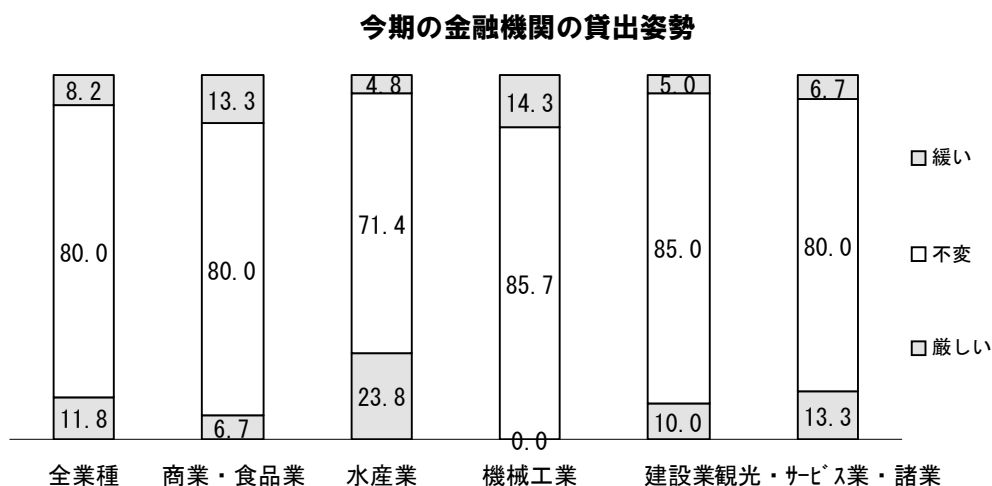


全業種平均で DI 値 $\Delta 10.0$ [前年 DI 値（平成 24 年 4～6 月期 2.7）より 12.7 ポイント在庫増加]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年 0.0 \rightarrow $\Delta 5.3$]、水産業 [前年 6.3 \rightarrow $\Delta 14.3$]

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

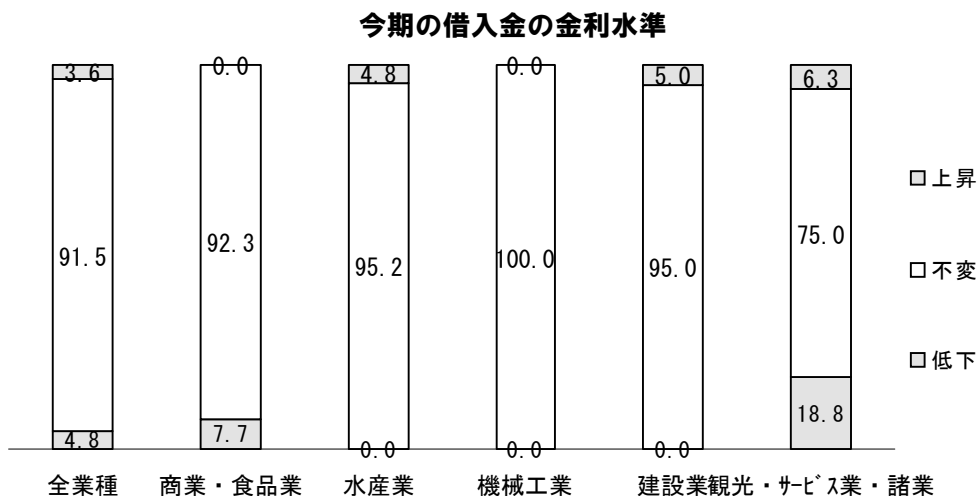
【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で $\Delta 3.6$ ポイント。商業食品業 6.7、水産業 $\Delta 19.0$ 、機械工業 14.3、建設業 $\Delta 5.0$ 、観光サービス業 $\Delta 6.7$ 。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



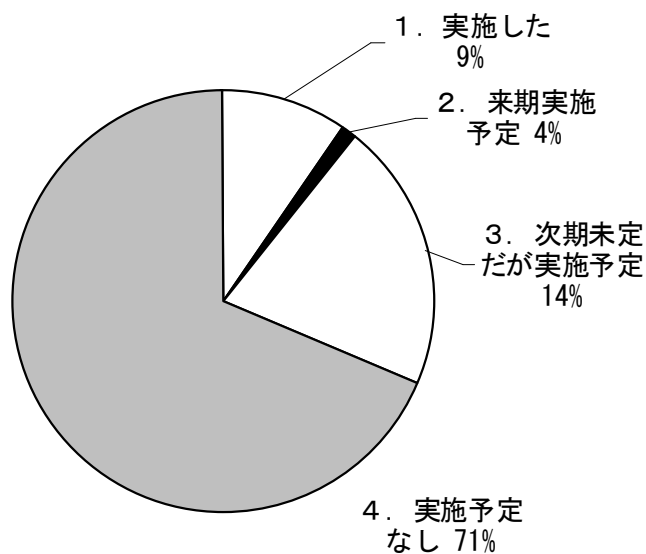
全業種平均で $\Delta 1.2$ ポイント。商業食品業 $\Delta 7.7$ 、水産業 4.8、機械工業 0.0、建設業 5.0、観光サービス業 $\Delta 12.5$ 。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

（設備需要は少し増加傾向。今が金利も安く売上増加に向けた設備投資はしたいが、借入してまでするとなるとなかなか経営的に厳しいという声も聞かれます）

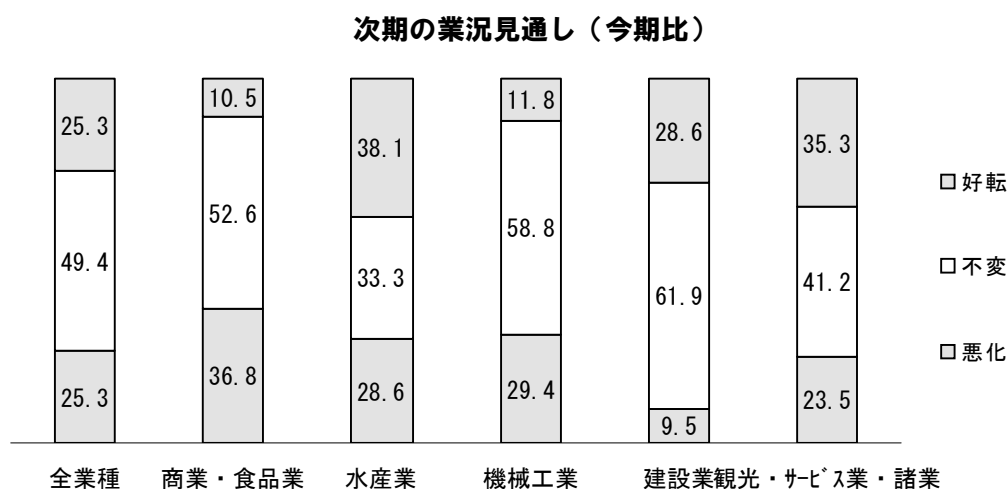
設備投資の実施状況



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

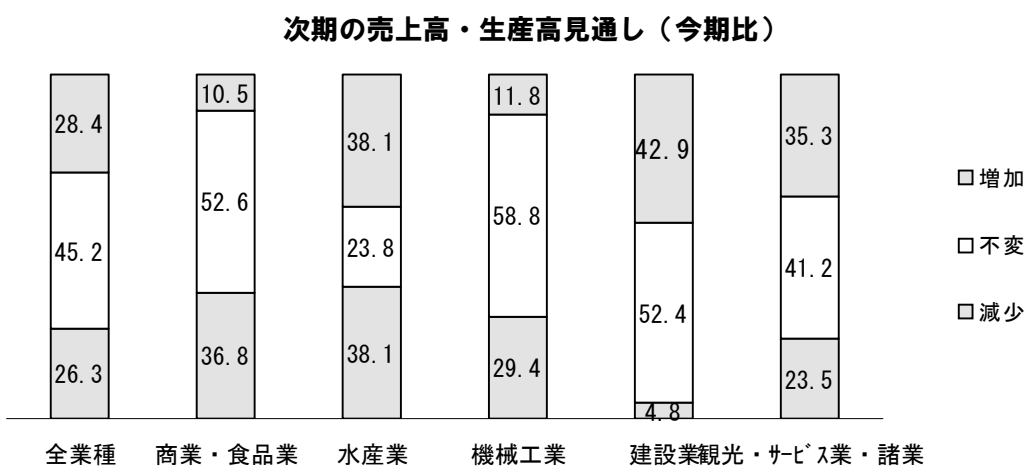
【今期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値 **0.0** [今期の業況（前年同期比△14.7）より 14.7 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

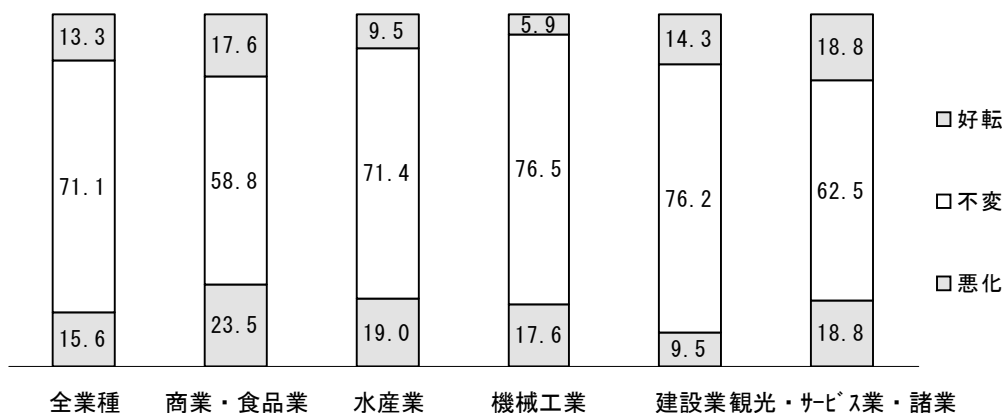


全業種平均 DI 値 **2.1** [今期の売上高・生産高（前年同期比△14.7）より 16.8 ポイント改善の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 2.3$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 13.1$ ）より 9.8 ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 14.7$	$\Delta 36.8$	0.0	$\Delta 23.5$	0.0	$\Delta 17.6$
	来期見通し	0.0	$\Delta 26.3$	9.5	$\Delta 17.6$	19.0	11.8
売上 D・I	今期実績	$\Delta 14.7$	$\Delta 36.8$	0.0	$\Delta 23.5$	4.8	$\Delta 23.5$
	来期見通し	2.1	$\Delta 26.3$	0.0	$\Delta 17.6$	38.1	11.8
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 10.0$	$\Delta 5.3$	$\Delta 14.3$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 17.0$	$\Delta 26.3$	$\Delta 4.8$	$\Delta 23.5$	$\Delta 9.5$	$\Delta 25.0$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 13.1$	$\Delta 16.7$	$\Delta 9.5$	$\Delta 6.3$	$\Delta 14.3$	$\Delta 18.8$
	来期見通し	$\Delta 2.3$	$\Delta 5.9$	$\Delta 9.5$	$\Delta 11.8$	4.8	0.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 3.6$	6.7	$\Delta 19.0$	$\Delta 14.3$	$\Delta 5.0$	$\Delta 6.7$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 1.2$	$\Delta 7.7$	4.8	0.0	5.0	$\Delta 12.5$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。